

ちょっと一言

「ちょっと一言」は学会の見解を掲載する欄ではなく、国内外の情報の紹介や日頃考えている事柄などを個人の責任で自由に投稿できるコーナーです。

ドバイにて金融危機に思う ちょっと一言（2）

湾岸 太郎

「専制君主制」をグーグルで検索するとウキペディアの「君主制」が出てきます。そこでは絶対君主制の国が紫色で示されていて湾岸産油国の多くがこれにあてはまります。湾岸地域に暮らしていると国の体制として何が良いのかをつくづく考えさせられます。資本主義か共産主義かという単純なものではなく、その土地、その歴史、その国の豊かさの程度によって、最も適した体制があるということを感じます。

湾岸産油国は明らかに専制君主制です。立憲君主制で実質的に議会による民主主義制度と取り入れているのがクウェートのみです。そのクウェートは国民議会が国の適切なる発展を阻害する要因になってしまっているように見えます。

近年の世界の動きを顧みるとこの宇宙に生まれてきたものは何もかもが、膨らみ過ぎると縮み、縮み過ぎるとまた膨らむという営みを繰り返し、同じような歴史を辿るのであるのかとの思いにとらわれます。恐らくそうした感じを持たれる方は、他にも多いのではないのでしょうか。

今日の状況を国家の単位で見ると、一方ではソ連邦崩壊、ユーゴスラビア解体などで大きくなり過ぎていた国家の単位が分散化してより小さな単位に縮小した後の状況です。他方でインターネットなどを通じてこれまでの国境の概念が薄れて国家の単位が良くわからなくなり、ある意味では国家の単位がグローバルに拡張しつつあります。

GDP 基準で豊かになりたい豊かになる権利を持っているとの思いを世界の多くの人々が持つようになる中で経済は、過去数十年間、最もグローバルに一体化、均質化が進んだ分野のひとつがです。ドバイはその象徴的な存在であるといっても過言ではないでしょう。そしてこうした経済的側面のひとつとして金融危機の状況を見てみると、そうした均質化、同時代化した状況が明らかに崩壊の連鎖を引き起こす大きな要因のひとつとなっており、ここにおいてもドバイは危機の影響の真ただ中にある象徴的な存在になっています。

こうした時代の中で中東に居てドバイの現実を間近で見ていると、金利を取らないイスラム銀行などといった動きも広がりつつあり、何が本当に良いのだろうか、欧米流の民主主義や資本主義などがどの国においても最良の社会体制だと言い切れるのであろうかとつくづく思います。

欧米流の民主主義と資本主義を非西洋諸国の中で最もよく体現したといわれている日本において、人々は事柄の優先順位を付けられないまま、重箱の隅をつつくようなやり取りが世の中に蔓延しています。日本にとって何が必要なのか、日本に住む人々にとってどのような体制、制度が良いのであろうか、本質にかえってもっと単純に事柄を考える必要があるのではないかと、ドバイの地が痛感させてくれる毎日です。